天遊

大阪教育大学 広報誌

VOL.8 2007. AUTUMN

《特 集》

大学院における採用前教育プログラムの開発

「大学院採用前教育」

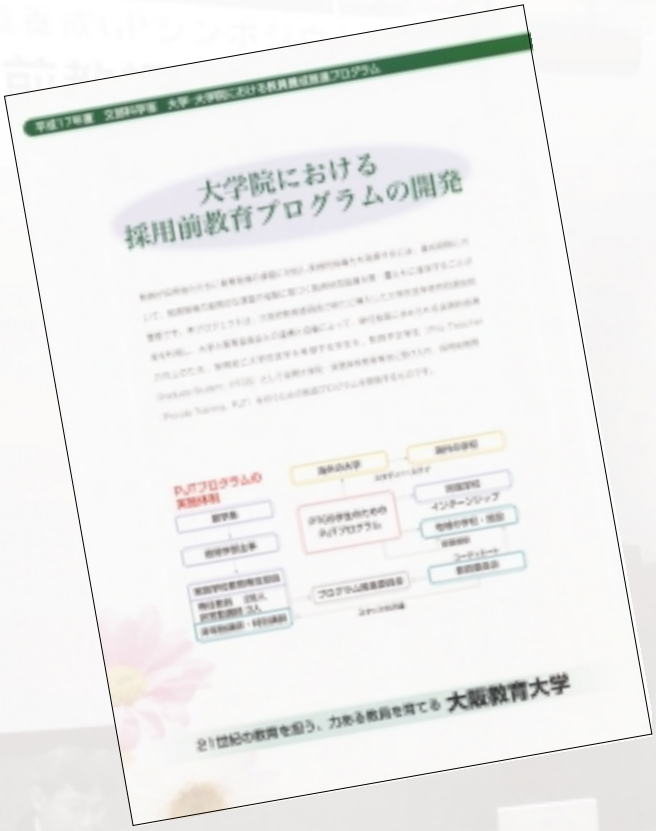
教員が採用後ただちに教育現場の課題に対処し実践的指導力を発揮するには、養成段階において、教育現場の実際的な課題や経験に基づく教育研究指導を質・量ともに確保することが重要です。

大阪教育大学では、大阪府教育委員会との連携と協働により、新任教員に求められる実践的指導力向上のため、採用前に大学院進学を希望する学生を夜間大学院実践学校教育専攻（天王寺キャンパス）に受け入れ、採用前教育プログラムの開発と実践を行っています。これは教職大学院に期待される人材育成の機能を先取りし、既存の研究科の中で実現する取組として国立大学法人評価委員会から評価されています。

教員養成GP

平成17年度に文部科学省に申請し採択された、教員養成ＧＰ（Good Practice優れた教育改革の取組）「大学院における採用前教育プログラムの開発」は、①実践的な視点からの授業観察と授業分析、②学校・プロジェクトインターンシップ、③パワーアップセミナー、④海外大学Teacher Training体験の4つのプログラムから構成されています。

実践学校教育専攻では、大阪府の「大学院進学者特別選考制度」（教員採用試験合格者のうち、大学院進学を理由に採用を辞退し、大学院修士課程修了後に教員採用を希望した者が、特別選考を受験できる制度）を利用して特別選抜試験を実施し、10名の院生を受け入れ、18年度から2年間の教育を開始しています。19年度からは、教員養成ＧＰに対応する「授業実践者コース」（後述）で学生を受け入れ、引き続きプログラムを実践しています。これらの学生に対しては、2年間の授業料を免除する特別な措置がとられています。



授業観察と授業分析

習熟度別指導、小中連携授業、学力向上特別授業、人権教育を中心とする総合的な学習等を行っている松原、堺、貝塚、池田市等大阪府内の特色ある小・中学校や、長野、高知、山形、沖縄県等府下にはない、山間の小規模校や校内に史跡を有する学校、地域に開かれた学校等府内外の特色ある小中学校の授業を観察・授業分析し、大学での教育内容の構成に役立てています。

パワーアップセミナー

学び続ける教師となるためのキャリア形成能力の育成のために、学生の自主的・自発的な企画のもとに、「教員の資質向上」「大阪の教育改革」「新任教師体験交流」「地域で守るみんなの命」「教師の多忙化」等をテーマに教育委員会、現場教員、地域住民を招き、各種のパワーアップセミナーを企画・実施しています。

学校・プロジェクトインターンシップ

松原、高槻、貝塚、東大阪、枚方市等地域の多様な教育現場を体験するとともに、地域の学校で取り組んでいる各種の教育改革プロジェクトにインターンシップ学生として参画しています。学生からは、「子どもの成長の姿や、教師と保護者は互いに同じ方向を向いての協力者であることに気づくことができた」「地域の人が参画する総合的な学習の時間が、非常に魅力的な存在であることがはっきりした」などのレポートが出されています。

海外大学でのTeacher Training体験

米国ノースカロライナ、タイ王国、英国ロンドン大学、韓国ソウル教育大学校等、本学と交流協定を締結している海外の大学を訪問し、我が国とは大きく異なる教員養成(Teacher Training)の実状を体験し、各種の教職ワークショップ等に参加するとともに、地域の学校を訪問して学校マネージメントや学校施設の見学を行っています。

シンポジウム開催と外部評価

2年間のプロジェクト実践の報告会として平成18年12月に開催したシンポジウムには、学内外の教育関係者が多数参加し、その成果を発表するとともに、有意な情報交換が出来ました。また、ロンドン大学教育研究所から2名の教授を招聘し、本プログラムの外部評価を受けました。その評価方法は、GP関係教員、GP院生一人一人と面接し、学校現場にも赴き校長、担当教諭にも面談するなどきめ細かいもので、特に学生自身が企画・実施したパワーアップセミナーや、海外体験研修は高く評価されました。また、GPプログラムを継続すること等を含む貴重な提言を受けました。

実践学校教育専攻の再編

第二部・実践学校教育専攻では、平成19年度からこれまでの1専攻1専修を、教員養成GPを継続するコースを含む3コース制に再編し、「教師教育の高度化・重点化」に向けたカリキュラム編成を行い、理論と実践の統一をめざしています。

スクールリーダー・コース
（School Leader Course:SLC）

学校づくりの理論と技術を学び、学校の組織開発と教育活動の組織化を進める組織的リーダーシップ能力を高める

教職ファシリテーター・コース
（Mentor Teacher Course:MTC）

授業分析・診断の理論と技術を学び、指導的教員として他教員に助言したり校内研究・研修を企画実施する能力を高める

授業実践者コース
（Fresh Teacher Course:FTC）

授業実践の基礎理論と技術を学び、実務経験を通してプロ教師としての実践的指導力を培う（教員養成GP対応コース）

消費者教育における批判的思考
――自己責任時代の自立した消費者を目指して

家政教育講座 准教授 鈴木（すずき） 真由子（まゆこ）

２００４年６月、「消費者保護基本法」（１９６８年５月）が36年ぶりに改正され、「消費者基本法」が誕生しました。法律の名称から“保護”の文字が削除されたことからもわかるように、消費者は“保護”の対象から“自立”を求められる存在へ、大きく転換しました。改正法第二条基本理念には、消費者の権利の尊重と自立の支援が消費者政策の中心的概念として明記されています。

かつては「かしこい消費者」を象徴的なスローガンとした、バイマンシップの育成に力点が置かれていました。しかし、これからの目指すべき消費者像は、「自立した消費者」であり、「判断し意思決定できる消費者」、「責任ある消費者」、ひいては「批判し発信できる消費者」です。つまり、消費者としての自己責任や批判的思考力（critical thinking）が求められており、それらを身につけたシチズンシップの育成が重視されるようになったのです。

では、批判的思考とはどのようなことを意味しているのでしょう。「批判的」という語感はネガティブな印象で捉えられがちですが、批判的に考えることは相手の意見を否定することではありません。また、単に懐疑的な態度をとることだけでもありません。批判的思考の中には、論理的かつ創造的で偏りのない思考、自分自身の推論プロセスについて省察的にモニタリングするメタ認知、多面的で柔軟な発想、合理的な意思決定、といった要素も含まれます。

日本消費者教育学会は、消費者教育の基本理念を「消費者教育は、消費者が商品・サービスの購入など消費生活の目標・目的を実現するにあたって、必要な情報・知識を収集し、それらを分析・理解し、個人的・社会的に責任が持てるかたちで選び、枠組みした価値に沿って批判的思考を働かせて選択対象の長所・短所を比較考量（トレード・オフ）し、優先順位を決め、購入したものを有効に利用することはもちろん、その後始末にも責任を持つという、一連のジレンマ問題解決的な意思決定過程の、シチズンシップ教育である」としています。自己責任時代だからこそ、こうした理念に基づいた消費者教育が不可欠なのです。中でも“批判的思考”がキー概念といえるでしょう。

消費者教育は解決すべき多くの課題を抱えています。例えば、大学などの高等教育や職域における消費者教育の展開、学校教育・社会教育現場における消費者教育関連の情報および教材の充実、消費者教育の担い手の支援強化などです。消費者行政、企業の消費者関連部門と連携を図りながら、少しでも課題の解決に寄与できればと考えています。

※写真は、今年の5月と8月に大阪府消費生活センター・関西消費者協会の若者向け消費者啓発行事でゼミ生が中心になって実施したワークショップ『クリティカル（批判的）に考えよう』の様子です。

生涯教育と自己教育

生涯教育計画論講座 教授 山田（やまだ） 正行（まさゆき）

一、生涯教育とは

生涯教育とは生涯にわたり続けられる教育で、ここには教育を学校だけに限定せず、幅広く様々に行われている学習と、それに関わる教育を総体的に捉えようとする観点があります。成長は青年期以降は止まり、逆に衰えるから、成人期からの学習はあり得なく、まして教育は意味がないというのは皮相的な考えです。人間は衰えること自体に対処し、衰えるにも衰え方があり、その中で豊かな意味のある人生を全うすることができるのですが、皮相的な観点では、これが抜け落ちてしまいます。そのため、成長よりもさらに深く人間を捉える発達という概念が重要で、生涯にわたる発達と、それを進める生涯学習という考え方に立ち生涯教育を捉えることが大切です。私は学部時代は社会学を専攻しましたが、地域教育運動で出会ったシャープでエネルギッシュなおばさんに啓発され大学院では社会教育学を専攻しました。そこで学んだことは、自分で考え、自分で望み求める人間になるという自己教育が教育の本旨という観点で、私はこれを生涯にわたり続けることが生涯教育だと考えています。

二、生涯教育計画論講座とは

生涯教育に関わる専門性を習得し、社会の様々な場面で実践されている学習を支援し、またそのための教育を計画できる人材の育成に務めています。制度的には、社会教育主事と図書館司書の資格の取得がカリキュラムに位置づけられています。

社会教育主事の仕事の一こま
（大阪市立総合生涯学習センターにて学習相談のとき）

社会では様々な学習や教育が実践されているため、定型的なマニュアルでは対応しきれません。そのため、具体的な状況に応じて関連する情報をできるだけ広く収集し、これを消化して知識にまとめ、それに基づき論理的に思考して、適切な支援や計画立案ができるように指導しています。つまり、生涯教育の理論を教授するとともに、様々な状況に対して臨機応変に対応できる実践力を育成しています。

パワーポイントでフィールドワークの報告をする学生たち

西宮市立公民館の実地見学

三、おわりに

自由で自立した市民によって成り立つ民主社会では、それを担えるだけの資質や力量が求められます。上意下達で上からの指示待ちでは社会は硬直化し、衰退します。民主主義は多数決だけではありません。多数決は合意形成の方法の一つであり、その過程では少数意見の尊重、公開された自由な議論、そして決定後の点検評価などが求められます。十九世紀には「私はあなたが何を言っても賛成しないが、私はあなたがそれを言う権利を断固として護るだろう」（ヴォルテール／タレンタイア）と、二十世紀には「自由とは、常に、思想を異にする者のための自由である」（ローザ・ルクセンブルク）と提起されました。現在は二一世紀です。仲間内だけでなく、異なる意見や思想の人たちと理性的に議論し、合意を形成する資質や力量を習得するためには、生涯にわたる絶えざる学習と教育が必要です。

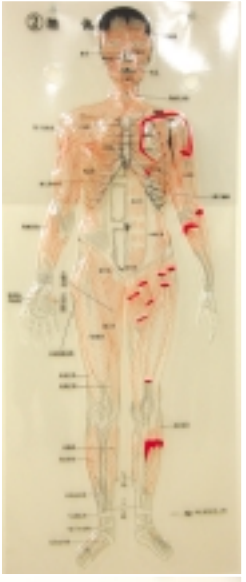
養護教育専門科目
解剖生理学―からだの不思議

養護教育講座 教授 小山 健蔵

からだの構造(かたち)を調べる学問を解剖学とよび、からだの機能(はたらき)を調べる学問を生理学といいます。

からだの構成単位は細胞であり、同種の細胞が集まって組織となり、数種の組織が集まって一定の機能を営む器官を形成しています。いくつかの器官は、互いに協同してさらに高次の機能を果たしています。構造と機能は深く関わっていますので、「解剖生理学」として理解することができます。例えば、消化管は食物を効率よく消化・吸収するために、その表面積を広くする独特の形態に発達しています。このように、構造と機能は極めて密接な関係にあり、切り離して考えることはできないのです。

生きているということは、からだの内部環境が一定に保たれていることを意味しています。これをからだの恒常性といいます。細胞が生き続けるための条件は、内部環境が細胞にとって適切でなければならないのです。



「解剖生理学」の講義では、からだを構成する各器官について、構造と名称をしっかり学んでもらうことと、細胞、組織、器官の各レベルにおけるからだの機能の基本事項を学んでもらうことにしています。最初の時間に、このような基本的な考え方、講義の進め方や評価の方法について説明するとともに、からだの主な臓器について描いてもらっています。からだの中に何があるのか、どのような形状かを描かせると、どこに臓器が位置するのか分からなかったり、臓器が足らなかったりと驚かされます。しかし、講義が終わる半期の間に、からだに興味を持ち、最後にはしっかり描けるようになっています。

私が所属する講座は、養護教諭(保健室の先生)を養成する課程の教育を担当しています。養護教諭は、「児童・生徒等の養護を司る」とあります。各学校における児童・生徒等の健康状態、学校の環境等々、児童・生徒等の健康、発育発達にかかわる種々の条件によって養護の内容が定められます。子どもたちの健康を把握し、判断する上で、からだの構造と機能を知ることは不可欠であり、他の専門科目の基礎になる学問です。からだの不思議に興味を持ち、より理解を深めてもらいたいと考え、毎年、工夫を凝らしながら楽しい講義をしています。

大阪教育大学 附属天王寺小学校

百三十年の伝統と、本質的な教育研究

附属天王寺小学校 副校長 服部（はっとり） 敬一（けいいち）

百三十年の伝統

平成十六年五月に中之島の田蓑橋北詰に、蛸の松と呼ばれる松の木が植えられました。その横に置かれた銘板には次のように書かれています。

蛸の松

江戸時代、中之島には諸藩の蔵屋敷が建ち並び、屋敷前には各藩自慢の松が植えられていました。人々は屋敷の白壁と川の流れに映る松の景色を楽しんだといわれています。

中でも、堂島川のほとりの久留米藩と広島藩の境の浜の松は、枝振りが蛸の泳ぐ姿に似ていることから「蛸の松」と呼ばれる名木でした。月の夕べや雪の朝の眺めはとりわけ美しく、絶賛されました。

江戸時代の「蛸の松」は、地図に示す対岸にありました。明治維新後は、大阪府師範学校附属演習小学校（現大阪教育大学附属天王寺小学校）が大阪久留米藩蔵屋敷跡地に開校し、その同窓会は、この地の松に因んで「雛松会」と名付けられました。

その後「蛸の松」は次第に樹勢が衰え、明治時代も終わるころ、枯死してしまいました。その切り株は現在、大阪教育大学に大切に保存されています。

護岸の美化にあわせ、かつての風趣を偲んで、蛸の松が再現されました。

銘板にもありますように、本校は明治十年に中之島に開校しました。大阪教育大学には現在十一の附属学校園がありますが、本校はその中で最初に設置された附属学校で、本年で創立百三十周年を迎えます。その間、校地移転と校名変更を繰り返しつつ、現在までに約一万人の卒業生を各界に輩出してきました。

二代目蛸の松

本校は、臨海学舎をはじめとする多くの伝統的な学校行事を今も続けており、子どもたちの生活に変化と充実をもたらすとともに、愛校心のもととなっています。また、本校の教育や授業のあり方、先生方の研究の成果は大阪を始め全国の小学校教育に多大な影響を与え続けてきたと自負しています。

教育研究

我が国の学校教育は、現在多くの課題を抱えています。昨年十二月には、約六十年ぶりに教育基本法が改正され、これからの教育のあるべき姿、目指すべき理念が示されました。そして、国はもちろん様々なところで、教育改善に関わる多くの取り組みがなされています。

本校では、授業改善を中心に、学校教育の改善を提案してきました。授業改善というと、子どもが興味をもつような教材開発や提示方法、学習活動の工夫といった指導方法や表面的なおもしろさに視点が置かれがちです。しかし本校では、勉強することは本来楽しいことであり、教科の学習内容や、教材はもともと子どもにとって価値あるものであるという点から目を背けることなく、「なぜその教科が必要なのか」「なぜその教材を取り扱うのか」「そのよさやおもしろさは何であるのか」を探究しつつ、授業研究に取り組んできました。このような視点からの授業改善は、子どもたちに学ぶことの価値や意味を自覚させることになるとともに、学習の楽しさを味わわせることができる本質的なものであると考えます。したがって、授業改善によって、現在の学校教育のほとんどの課題が解決できるのではないかと考えています。

教育研究は、教育実習、大学と一体で行う研究、教員の研修とともに本校の特色であり大切な使命の一つでもあります。そして、本校の先生方が情熱をもって取り組んでいるものなのです。毎年二月に行う研究発表会には、全国から千名を超える方々にご来校いただいています。

毎年、多くの参加者がある研究発表会

TOPICS
専門職大学院（教員養成）GP、学び直しGPに採択

平成19年度、文部科学省が選定する「専門職大学院等教育推進プログラム」及び「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」に以下の2つのプログラムが採択され、平成17年度と平成18年度に採択された「現代的教育ニーズ取り組み支援プログラム」とあわせ、4つのプログラムを実行中です。

「専門職大学院等教育推進プログラム」

学校組織の危機対応教育プログラムの開発
―大学・学校・教育委員会の連携による学校リスクマネージメントシステム構築をめざした教員の養成・研修プログラムの開発―

平成19～20年度

学校をとりまく様々な今日的課題に対応するため、教育行政等との連携のもとに、学校組織のリスクマネージメントに関する教育プログラムを開発し、教員の養成・研修カリキュラムに導入するとともに、学校リスクマネージメントシステムの構築に関する実証的研究を行うプログラムです。

「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」

大学と学校・教育委員会の連携による教員免許所持者のための即戦力教育プログラム

平成19～21年度

教員一種免許を取得し、教職への志を抱きつつも、その夢を叶えていない者のうち、学校現場に必要とする社会経験を経た中堅教員世代（概ね30歳～40歳）を対象に、今の学校教員に求められる資質・能力の育成並びに事前に教職適性を自己判断する教育プログラムを大学と教育委員会が連携して提供するプログラムです。

「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」

知財教育のできる教員養成システムの構築
―連携による知的創造サイクルと学校教育の結合―

平成17～19年度

学校現場で種々の教科において、知的財産教育を行うことができる教員（知的創造サイクル全体を視野に入れ、全体像を理解し教育できる人材）の養成をめざしたシステムを構築するプログラムです。

地域連携学校教育のできる教員養成
―地域に愛着を持ち地域に根ざした子どもを育成できる教員養成プロジェクト―

平成18～20年度

地域に愛着を持ち、地域に根ざした子どもを育成することのできる人材養成をめざし、大学教員、学生及び地域住民の協働による地域連携学校教育プログラムを通じて、地域づくりリーダーとしての役割をも担い得る教員を養成するプログラムです。

わくわくアートの時間

美術教育講座 准教授 加藤（かとう） 可奈衛（かなえ）

美術教育講座と芸術講座（美術・書道）が持つ様々な可能性を有意義に活用することを目的とした地域開放事業（ミニ公開講座）です。平成17年1月より毎年幾つかの企画を実施し、3年目になります。週末を中心に開催される講座により、親子のふれあいの場や、様々な交流を通し、少しでも社会のお役にたてればと考えています。

また、学生提案企画の採用などによる学生の現場体験、他講座や外部機関等との交流連携など、ささやかながら活動展開しています。企画情報は、「広報かしわら」、「近鉄ニュース」等の広報誌、新聞・ミニコミ誌等に掲載して頂いています。

実施内容としては、「春を見つけて絵を描こう!」などの各研究室企画、「ハンガ祭りへいらっしゃい!」、「墨っ子集まれ」、「ぶどう染めで何ができるかな?」、「わくわく解体ワールド」、「フォトグラム～影で描いてみよう!」、「世界にたった一つしかない自分だけの楽しいお面を作ろう!」などの学生企画、スライドレクチャー（現職教員、海外作家）等も開催しました。また、技術及び特別支援教育講座との連携企画も実施し、特に今年度開催の視覚障害のある子供とご家族を対象にした企画（粘土遊び、野焼きキャンプ等）は、連携による新たな可能性を見せてくれています。

海外美術作家スライドレクチャー
協力：欧米言語文化講座（亀井）、留学生センター（中山）、学校教育講座（二井）

巨大バルーンをつくろう!

キャンプファイヤーで何ができるかな?!（野焼きキャンプ）

理科大好き教員を目指すかがく実験教室

—教育委員会と連携した小学校教員研修活動の紹介—

科学教育センター 教授
任田 康夫（とおだ やすお）

科学技術立国として活路を見出そうとしているわが国において、子供達の理科離れは憂慮すべき問題です。しかし、小学校から大学までの教員が理科の実験の楽しさ、面白さを認識して、児童、生徒および学生に指導すれば解決できない問題ではありません。さらに、現職の小学校教員の方々に教育現場で使えるさまざまな実験教材を紹介するのは、理科離れの対策としてたいへん有効であると考えられます。

このような考えから、科学教育センター（この4月から発足）の前身である科学機器共同利用センターを中心として、平成14年から柏原市、八尾市、すこしたってから藤井寺市の教育委員会の要請に応じて毎年、100名を越す小学校の新任教員研修を行ってきました。一部、中学校教員および希望されたベテラン教員も参加されています。アンケートの結果などより、参加された先生方は、例年、この研修に満足してお帰りになっています。

例年は夏休みの二日連続の研修会でしたが、本年からは、地元三市の教育委員会からの参加者（90名）に加え大阪府教育委員会との連携行事として大阪府下全域からの参加者（十数名）を迎え、各1日の研修を2日に亘り（8月8日と9日）実施しました。大阪府教委からの参加者が少なかったのは、初年度で参加対象教員に十分に研修会の日程等が伝わらなかったためです。来年度以降は100名の定員に達すると思われます。

この研修の特徴は、多数（本年度は25）の実験テーマが用意されていて、理科の各分野がほとんどカバーできる体制ができています。その中から研修者が希望のテーマを選べることです。もちろん、個々の先生方の全てのご希望テーマを実験していただけませんが、できるだけご希望に添うよう調整します。

もう一つの特徴は、平均して一人の大学指導教員が4名の研修生を指導する少人数クラスで細かなノウハウまで紹介できることです。理科実験の指導では、これ以上受講生を増やすと細やかなところまでは説明しきれません。実験の面白さを伝えるには、やはりこのような少人数クラスが必要です。

このように多くの適切なテーマを用意し、多数の研修者を受け入れることができるようになっている背景については、附属小中学校の教諭の先生方を始め、大学の多くの先生方が科学教育センターの本研修の趣旨を良く理解して下さり積極的に参加して下さることがまず第一に挙げられます。また、大阪教育大学の理科教員の有志は、十数年前から地域の小学生を対象とした「親と子のたのしいかがく教室」を実施してきました。さらに数年遅れで、中学生および高校生を対象としたそれぞれの「一日体験入学」もおこなってきました。これらの行事を実施することにより、大学教員がじかに小中学生、高校生と接しながら、どのように指導すると子供たちにそれぞれの年齢に適した理科の面白さを分かってもらえるかがノウハウとして集積してきていることも挙げられます。

本教員研修の今後の課題としては、これらの実験が実際の小学校教育の中で有効に活かされるようなカリキュラムの提案などを行っていきたいと考えています。学内外の先生方のご協力をお願い申し上げます。

キャンパス散歩

大学進学相談コーナーを新設

本年4月に入試課事務室を事務局棟3階から教員養成課程1号棟1階に移転・整備した際、本学に進学を希望する方の各種相談をお受けするためのスペースを設けました。同スペースは、入試課事務室に隣接して設置し、入試課職員による入試案内、専攻・コースに関わる教育・研究内容に関しては、関係講座の教員による説明ができるようになっています。

2007年10月発行　企画・編集・発行／国立大学法人大阪教育大学企画課　ホームページ／http://www.osaka-kyoiku.ac.jp/

■平成20年度入試日程（平成20年4月入学）

区分			出願期間	入試日	合格発表日
教育学部第一部	センター試験を課さない推薦		11/1〜7	11/17・18	11/26
	センター試験を課す推薦		12/17〜21	1/23・24	2/13
	私費外国人留学生		12/20〜26	1/23	2/13
	一般	前期	1/28〜2/6	2/25・26	3/7
		後期		3/12	3/23
教育学部第二部（夜間）	小学校5年課程	前期		2/25	3/7
		後期		3/12	3/23
	小学校5年課程3年次編入学		1/7〜10	2/16・17	2/22
特別支援教育特別専攻科	特別支援教育専攻		1/7〜10	2/2	2/22

入試日程に関するお問い合わせは　TEL.072-978-3324までお願いします。

■現職教員や社会人をはじめ広く一般の方々に学習機会を提供するため下記の制度を設けています。

区分		出願期間	備考
科目等履修生	教育学部	3月上旬頃	出願要項は1月上旬頃配布（予定）
	大学院教育学研究科	3月上旬頃	

科目等履修生とは、学部又は大学院の正規の授業を履修し、試験に合格すれば単位を取得できる制度です。
各種免許・資格の取得や特定のテーマについて専門的に学びたい方などが受講されています。本学の授業に支障をきたさない範囲において選考の上、履修が許可されます。
科目等履修生に関するお問い合わせは　TEL.072-978-3297までお願いします。

区分		出願期間		備考
研究生	教育学部	前期又は1年間	2/18〜2/22	出願要項配布中 ＊外国人留学生は出願期間の一週間前に書類確認期間が別に設けられています。
	大学院教育学研究科	後期	8/25〜8/29	
	教育学部（外国人留学生）	前期又は1年間	11/5〜11/9	
	大学院教育学研究科（外国人留学生）	後期	5/12〜5/16	

研究生とは、学部又は大学院を卒業・修了された方が、指導教員のもとで、特定の研究テーマに対して指導を受ける制度です。
研究生に関するお問い合わせは　TEL.072-978-3297までお願いします。

近畿地区国立大学体育大会

男子総合優勝！　女子総合優勝！

第45回近畿地区国立大学体育大会において、本学が昨年に引き続き男子・女子とも総合優勝を収めました。
なお、この他、本学学生の課外活動・サークル活動の状況は、下記URLからご確認いただけます。

http://blog.bur.osaka-kyoiku.ac.jp/student/

『天遊』とは

「天遊」は、荘子の言葉から引用されたもので、人間の心の中に自然に備わっている余裕をあらわしています。キャンパス統合移転の記念に旧師範学校以来の同窓会3団体から寄贈された記念碑に銘文として刻まれています。

記念碑の揮毫は、水嶋 昌（山耀）本学名誉教授によるものです。

卒業生専用ポータルサイト（OKU-net）立ち上げ間近

本学では、卒業生・修了生が相互に交流し、また大学として社会で活躍する卒業生・修了生の方々の活動を支援していくことを目的として、『卒業生専用ポータルサイト（OKU-net）』開設準備を進めて来ましたが、間もなく12月に開設する運びとなりました。

このサイトを利用することで、さらに充実した大阪教育大学ネットワークを構築していきたいと考えています。

本誌にご意見をお寄せください

本誌『天遊』は今後の誌面づくりに皆様のご意見を積極的に取り入れていきたいと考えています。ご感想やご意見、大阪教育大学についてお知りになりたいことなどをお聞かせください。

●宛先　〒582-8582　大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1
国立大学法人大阪教育大学企画課
TEL.072-978-3344　FAX.072-978-3225
E-mail　kikaku@bur.osaka-kyoiku.ac.jp
ホームページ　http://www.osaka-kyoiku.ac.jp/

R70 古紙パイプ配合率70%再生紙を使用。
PRINTED WITH SOY INK アロマフリー型大豆油インキを使用しています。
この印刷物は、6,000部を715,000円で、すなわち1部119.2円で作成しました。